

フロイント産業株式会社

フロイントレポート 2021

2021年2月期

(2020年3月1日～2021年2月28日)

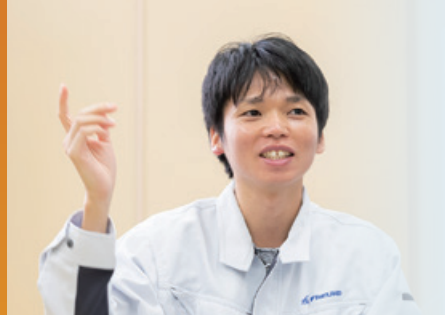
Contents

- プロフィール…………… 1
- フロイントグループの歩み…………… 2
- 医薬品の製造プロセスと
フロイントグループの事業領域…………… 3
- 事業セグメントの概要と
社会との関わり…………… 4
- 社長メッセージ…………… 5
- Close-Up**
- フロイントグループの
グローバル展開…………… 10
- フロイントグループ
10カ年財務データ…………… 15
- 経営成績の分析…………… 16
- コーポレート・ガバナンス…………… 17
- 会社・株式情報…………… 22

免責事項 見通しに関する注意事項

このレポートは、当社の計画・見通し・戦略・業績などに関する将来の見通しを含んでいます。この見通しは、現在入手可能な情報から得られた判断に基づいています。したがって、実際の業績は、様々なリスクや不確実性の影響を受けるものであり、これらの見通しとは大きく異なる結果となることがあることをご承知おきください。将来の見通しに影響を与える要素には、当社の事業領域を取り巻く経済環境・競争圧力・関連する法規・製品の開発状況の変化・為替レートの変動などがあります。ただし、見通しに影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

(注) このレポートの内容は、2021年2月期(2020年3月1日～2021年2月28日)の実績に基づいています。(ただし、一部2021年3月以降の情報を含みます)



プロフィール

当社は、「ハード(医薬品製造装置、医薬品添加剤をはじめとする製品群)」と「ソフト(製剤技術)」のビジネスモデルを基礎に成長してまいりました。現在、日本を含むアジア、アメリカ、ヨーロッパに5社のグループ会社を組織し、医薬品分野のみならず非医薬品分野にも事業を展開。当社グループの価値観『ONE FREUND』のもと、経営ビジョンにある「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献」の実現に向けた事業活動を推進しています。

企業理念

『創造力で未来を拓く』[®]

経営
ビジョン

フロイントグループは、世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指します。

フロイントグループが大切にしている価値観



フロイント グループの歩み

錠剤のフィルムコーティング技術に着目し、世界に先駆けて「自動フィルムコーティング装置」と「フィルムコーティング液」の開発に成功したフロイント産業は、1964年の創業以来、『創造力で未来を拓く[®]』という企業理念のもと、造粒・コーティング技術を基礎に、研究開発型企業としての道を歩んでまいりました。

創業期 1964年～1969年

高度経済成長期の中で誕生

- 1964 経営** 東京都千代田区神田司町に会社設立
- 機械** 自動フィルムコーティング装置のテスト機「FM-2型」、生産機「FM-5型」を開発・販売
- 化成品** 医薬品用フィルムコーティング液「FC-101」、「EC-101」を開発・販売
- 1969 機械** 流動層造粒コーティング装置「フローコーター」を開発・販売

飛躍期 1970年～1989年

日本経済の成長にあわせ飛躍的に成長

- 1971 機械** 自動糖衣・フィルムコーティング装置「ハイコーター」を開発・販売
- 1978 化成品** 食品品質保持剤「アンチモールド-102」を開発・販売
- 1980 経営** フロイント化成(株)を埼玉県浦和市(現:さいたま市)に設立(2014年3月に吸収合併)
- 1987 化成品** 多機能型食品品質保持剤「ネガモールド」を開発・販売

拡大期 1990年～2019年

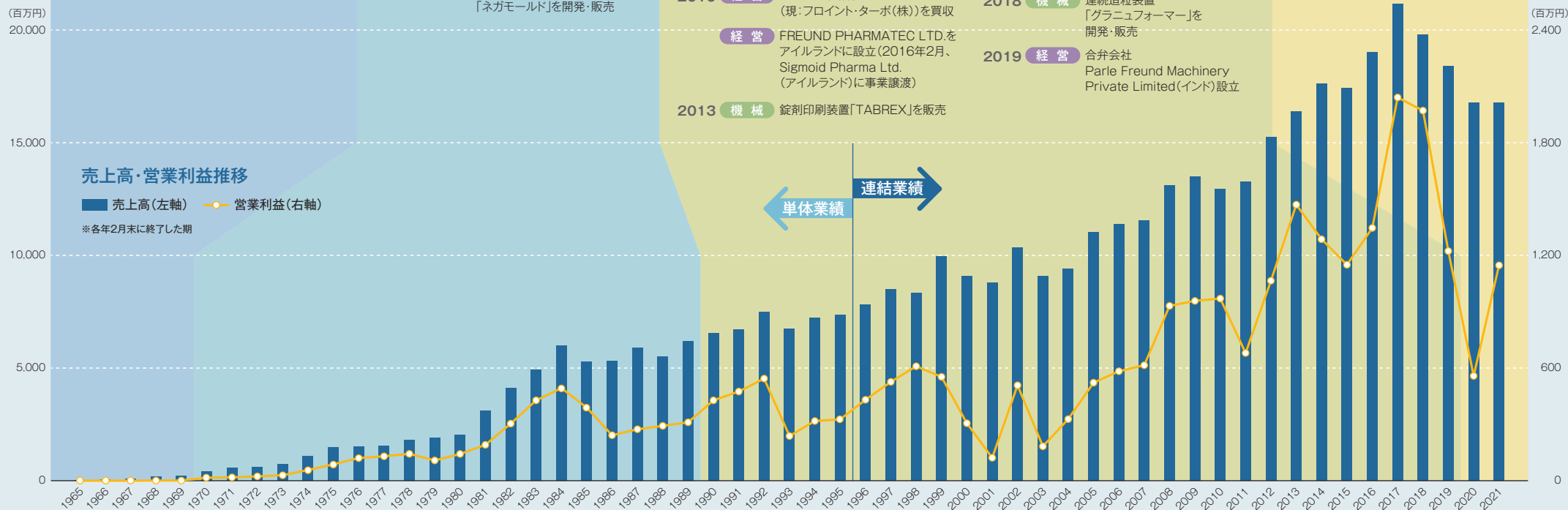
グローバル化により市場を世界に拡大

- 1992 経営** 静岡県浜松市に浜松事業所・技術開発研究所を開設
- 1996 経営** 日本証券業協会に株式を店頭登録(後のJASDAQ)
- 1997 経営** VECTOR CORPORATION(米国)(現:FREUND-VECTOR CORPORATION)を買収
- 2008 機械** 新型錠剤コーティング装置「ハイコーター-FZ」を開発・販売
- 2010 経営** ターボ工業(株)(現:フロイント・ターボ(株))を買収
- 経営** FREUND PHARMATEC LTDをアイルランドに設立(2016年2月、Sigmoid Pharma Ltd.(アイルランド)に事業譲渡)
- 2013 機械** 錠剤印刷装置「TABREX」を販売
- 2014 経営** 創立50周年を迎える
- 機械** 連続造粒装置「グラニューフォーマー concept model」を開発
- 2015 化成品** 口腔内崩壊錠向け医薬品添加剤「ノンパレル-105(150)」を販売
- 2016 機械** 錠剤印刷装置「TABREX Rev.」を開発・発売
- 2018 機械** 連続造粒装置「グラニューフォーマー」を開発・販売
- 2019 経営** 合併会社 Parle Freund Machinery Private Limited(インド)設立

未来へ 2020年～

創造力で未来へ飛翔

- 2020 経営** Cos.Mec S.r.l.(イタリア)を買収
- 2021 経営** 合併会社 Freund-Chineway Pharmaceutical Technology Center Co., Ltd.(中国)を設立(予定)



医薬品の製造プロセスと フロントグループの 事業領域

当社グループは、医薬品用製剤（錠剤・顆粒剤など）を作る工程で使用される機械装置と添加剤などの化成品を主力製品としています。この分野で機械装置と化成品の両方を同一企業体で手掛けているのは、世界でも当社グループだけです。さらに、2020年11月、製剤の付帯的工程を担う搬送装置などを取り扱うイタリアCos.Mecのグループ入りにより、当社グループの製品群が大きく広がりました。

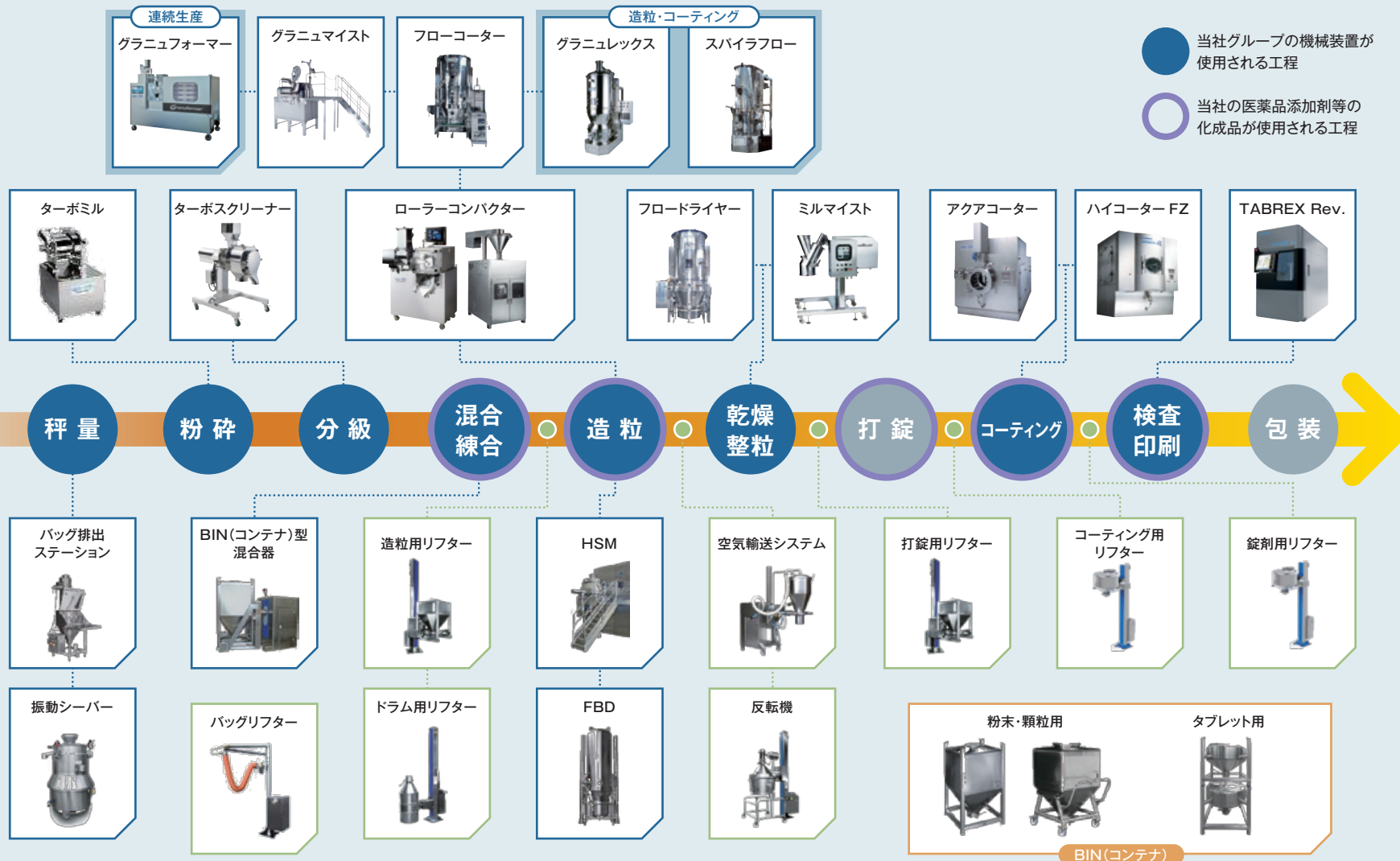


製品詳細は
こちらをご覧ください

フロント産業
株式会社

FREUND-
VECTOR

Cos.Mec



事業セグメントの概要と社会との関わり

フロイントグループは、造粒・コーティング・粉碎・分級などの技術を基礎に、医薬品のみならず、食品やその他の産業用途などの非医薬品分野にも事業領域を拡大し、人々の健康や生活の質向上に貢献するチャレンジを続けています。

機械部門

医薬品、食品、化粧品などの様々な分野向けに、造粒・コーティング装置などを製造・販売

特徴

- 造粒・コーティング装置の販売シェアは、国内はおろか世界の中でもトップクラス
- アジア市場に加え、米国・イタリア子会社による欧米展開も加速
- 製剤技術をベースに装置を開発
- 造粒・コーティング技術に、粉碎・分級技術を融合させることで、他産業分野向け装置の拡販にも注力

化成品部門

医薬品添加剤、食品品質保持剤、健康食品などを製造・販売

特徴

- 医薬品添加剤は、GMP*対応設備で生産
- 食品品質保持剤は、様々な食品の品質保持に利用され、安全な食生活に貢献
- 造粒・コーティング技術を用い、お客様企業との共同開発で健康食品やシームレスミニカプセルを商品化

*GMP : Good Manufacturing Practice

提供する社会的価値

医薬品の付加価値を高め、医療の質の向上を支えます

造粒・コーティング技術を核に薬効の向上に貢献

半世紀以上にわたり、フロイント産業は造粒・コーティング技術をコアコンピタンスに、製品と製剤技術で、医薬品の付加価値向上に携わってきました。より多くの人々が付加価値の高い医薬品を利用できるものづくりを行い、グループをあげて世界中の医療の質向上に貢献しています。



連続造粒装置
「グラニューフォーマー」

「飲みやすさ」の追求で高齢化社会に貢献

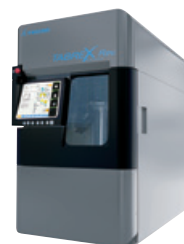
薬の薬効成分は全体の数%。残りは、薬の表面に被膜を作って苦みをなくしたり、飲みやすい大きさにするための添加剤でできています。フロイント産業は、独自の製剤技術によりOD錠(口腔内崩壊錠)関連の製品開発を強化し、ご高齢の方々の嚥下(えんげ)補助や飲みやすさの向上に貢献しています。



医薬品添加剤
「グラニュートールF(ファイン)」

調剤取り間違いによる医療過誤の防止に貢献

調剤の現場では、外観や名称の類似した薬剤の取り違いなどの調剤過誤が生じるケースがあります。フロイント産業は、あらゆる錠剤に識別しやすい印刷を施すことで、世界中の医療過誤防止に貢献したいと考えています。そのために、業界初のコンセプトで新型錠剤印刷装置(検査機能搭載型)と専用インクを開発しました。



錠剤印刷装置
「TABREX Rev.1」

提供する社会的価値

より美味しく、より健康的に。人々の豊かな生活を支えます

できたての美味しさと安全・安心を追求

焼き菓子やパン、和菓子などの包装に入っている小袋——これが食品の美味しさと安全・安心を保つ食品品質保持剤です。フロイント産業は、静菌効果としっとり感を保持する「エタノール蒸散」という独自技術を基礎として各種品質保持剤を開発し、食品のできたての美味しさと安全・安心をお届けしています。



食品品質保持剤
「アンチモールド」

高度な製剤技術で有用食品成分を最大活用

健康志向の高まりとともに、サプリメントなどの健康食品への要望が高まっています。フロイント産業は高度な製剤技術をもって、有用成分がより効果的に機能するよう、また服用しやすくするために、健康サポートメーカーとともに人々の健康的な生活に貢献しています。



食品用コーティング剤
「キトコート」

提供する社会的価値

新技術分野への挑戦で、より豊かで便利な生活を支えます

独自の粉碎技術で次世代の新市場を創出

フロイントグループの粉体微細化技術は、化粧品や食品など、日常生活を支える業界のモノづくりにも活用されています。例えば、多くの女性が日々使う化粧品のファンデーション。当社グループの装置で作る微細な粉体が、「健康的な肌」「きれいな肌」を演出しています。



高粘度対応湿式粉碎・分散機
「アクアターボTZ」

グループ価値観『ONE FREUND』のもと、 「世界中の人々の医療と健康の未来への貢献」を 追求してまいります。

完全顧客視点に立ち、持続的成長のための新たな経営基盤の構築を目指す第8次中期経営計画の初年度となった2021年2月期(以下「21/2月期」)は、世界規模で新型コロナウイルスの感染が拡大し、経済活動が大きく影響を受けました。このような環境において、「フロイントグループの事業は人々の医療と健康に深く関与していることを改めて実感した」と語る代表取締役社長の伏島巖に事業活動の概況や今後の取り組みなどについて聞きました。

ONE FREUND

代表取締役社長

伏島 巖



2021年2月期：事業活動の概況

日本のマクロ経済は、コロナ禍により2020年春以降未曾有の落ち込みとなりました。5月の緊急事態宣言全面解除後は経済活動が再開し、緩やかながらも回復基調となりましたが、秋以降に第3波が到来し、景気回復のペースは鈍化し、先行き不透明な状況となりました。

日本の医薬品業界は、薬価改定やジェネリック医薬品使用促進などの医療費抑制策の強化、研究開発費の高騰や開発リスクの増大など、様々な対応を迫られています。ジェネリック医薬品市場においては、政府が進めてきた普及促進策の効果が一巡し、成長が鈍化することが予想されています。

世界経済は、コロナ禍により各国の経済活動が大幅に縮小した後、経済活動の維持と感染拡大抑制の両立を模索するなかで、緩やかながらも景気回復に向かっていましたが、変異ウイルスの発生などによる感染再拡大により、景気回復の不透明感が増しています。

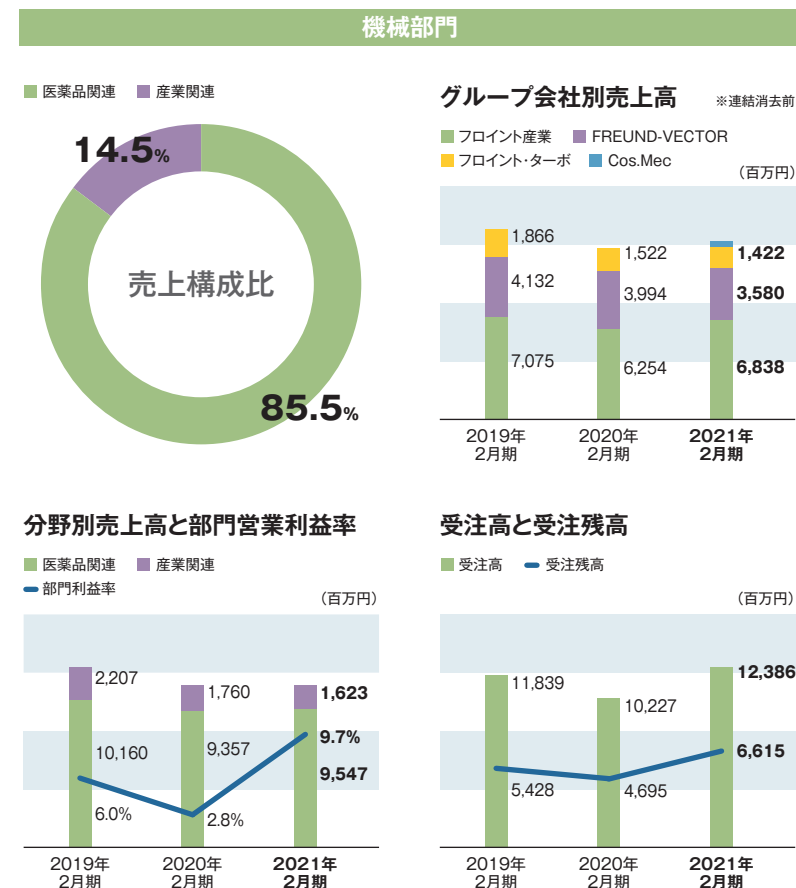
医薬品分野における事業活動

機械部門の概況

コロナ禍に加え、薬価引下げという厳しい環境下にあった日本市場ですが、顧客視点に立った営業活動の強化が奏功し、製薬メーカーの設備投資需要を受注につなげることができました。さらに、2019年9月に新設されたカスタマー事業本部において、営業部門とサービス技術部門が密接に連携し、コロナ禍においても納期通りの納品を実現できたことで、予想通りの業績を達成することができました。

海外市場では、コロナ禍により、インドや欧米などで

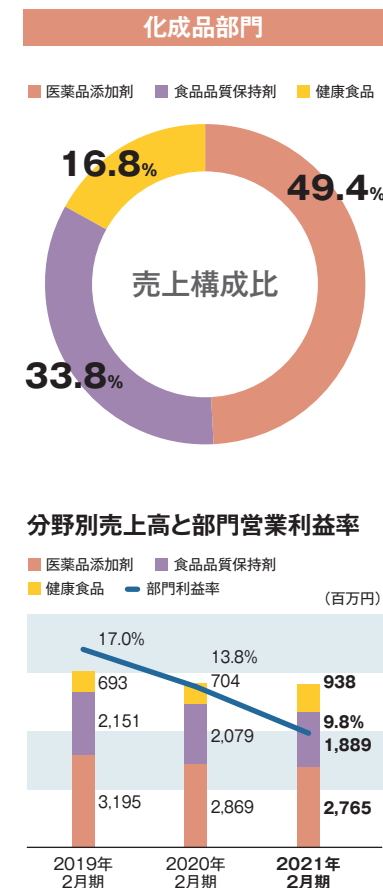
部門別業績の推移



営業活動が大きく影響を受けましたが、米国FREUND-VECTORが米国政府によるコロナ対策の補助金を受け取ったほか、グループ全体として経費削減を図ったことにより、営業利益は増益となりました。いち早く経済活動を再開した中国では、フロイント産業、ならびに中国の代理店2社の営業努力が過去最大の売上高につながりました。

化成品部門の概況

日本市場では一部の製品について、顧客メーカーの生産調整や納入時期が2022年2月期(以下「22/2月期」)にずれこんだ影響がありましたが、海外市場では中国での需要拡大や国内製薬メーカーによる海外工場への生産移管に対応した輸出増を受け、予想を上回る着地となり



りました。さらに、日本市場においても新規受注が積み上がっており、22/2月期以降に向けた販売基盤強化を着実に進めております。

非医薬分野における事業活動

機械部門においては、主要顧客市場である化学業界、電池業界がコロナ禍の影響を受けましたが、同業界からもコロナ禍の収束を見据えた受注が入り始めており、22/2月期以降の業績回復が期待されます。

化成部品部門では、インバウンド需要やデパート、テーマパークなどへの販売減で、食品品質保持剤事業がコロナ禍の影響を大きく受けました。

第8次中期経営計画初年度の振り返り

完全顧客視点に基づく事業基盤改革

カスタマー事業本部が稼働し、完全顧客視点に立った技術、機械営業、添加剤営業、海外営業の各部門が一体化したことで、全員営業の意識が高まってきたと評価しています。営業が捉えた現場での顧客ニーズに技術部門が即座に対応するといった取り組みも徐々に強化されています。

特に生産労働人口の減少する日本では、自動化や省人化のニーズが高まっています。継続的な薬価引下げに対するコスト削減も重要です。このような潜在的な顧客ニーズに応えるべく、連続生産技術を駆使し、センサーを用いた生産管理システムの構築など、医薬品の安定供給のための安定稼働への取り組みにも着手しています。

第8次中期経営計画の概要 (2021年2月期～2023年2月期)

基本戦略

顧客の真のニーズに技術力をもって応え、持続的に利益成長する経営構造の実現を目指す



7つの経営目標

- 1 グループの連携
- 2 完全顧客視点
- 3 イノベーション重視
- 4 グローバル経営
- 5 成長戦略の実行
- 6 業務改革と働き方改革の推進
- 7 コンプライアンス・コーポレートガバナンスの重視

グローバル化推進に向けた取り組み

2020年11月、当社はイタリアの医薬品等製造機械装置メーカーであるCos.Mec S.r.l.(本社：イタリア・ミラノ、以下「Cos.Mec」)を完全子会社化しました。また、同年12月、中国の代理店1社とFreund-Chineway Pharmaceutical Technology Center Co., Ltd.(所在地：中国・上海市、以下「上海FCセンター」)という技術開発研究所設立のための合弁契約を締結しました。上海FCセンターは2021年度中の設立を予定しており、これにより日本(フロイント産業)、米国(FREUND-VECTOR)、欧州(Cos.Mec)、インド(Parle Freund)に中国(上海FCセンター)を加えた5極体制となり、新興国を含む全世界のカバレッジを高めてまいります。

当社グループのグローバル展開マップについては10ページを、グローバル展開の概要については10～14ページをご参照ください。

私は、海外事業のポイントは、以下の3点にあると考えています。まずは、“各地域の需要にあった良い製品を持つこと”、そして、“メンテナンスを含めたサービスになるべくローカライズしていくこと”、最後に“各国に強い販売代理店を持つこと”です。これらの視点から、グループ事業基盤の最適化をスピード感をもって推進しようと考えています。

グローバル5極体制にめどが立ち、経営ビジョンを達成するための土台はできたと考えています。今後はグローバル経営を具現化する局面に入ります。医薬品・非医薬品分野を問わず、当社グループは、世界中の人々の医療と健康、また豊かな生活と食の安全・安心に貢献する製品群を提供し、グローバル社会に貢献できる事業を

推進しているという意識をさらに徹底し、グローバル人材の育成を強化してまいります。

経営基盤強化施策の進捗

2019年9月に新本部制、執行役員制度を導入し、1年半を迎えました。製品別本部から機能別本部制に変更し、機能ごとに機械と化成品双方を扱うことになったことにより、機械部門と化成品部門の融合が進み始めています。

執行役員制では、各本部長を執行役員にしたことに加

え、主要子会社の社長をフロイント産業の執行役員に任命し、連結経営を強化しました。

管理面では、在宅勤務を含め、働き方改革に取り組む一方、BPI(ビジネス・プロセス・イノベーション)や人事制度の再構築に関するプロジェクトを立ち上げました。22/2月期は、BPIプロジェクトの完了、新しいERPシステムと人事制度の導入が重要な取り組みとなります。

さらに、22/2月期に入り、経営体制を刷新しました。まず、社外取締役を経営の経験者を招聘しました。加えて、若い社員に将来のキャリアパスを感じてもらえるよ

う、プロパーの社内取締役を任命しました。また、社外監査役に法律専門家の弁護士を招聘しております。

当社は経営ビジョンにあるとおり、事業を通じて「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献する」ことが使命です。その責務を果たすためにも、今後も様々な経営基盤の強化を行い、グループ価値観『ONE FREUND』をグローバルに浸透させ、多様な知識・経験を持った世界中の社員があらゆる現場で活躍できるグループづくりに取り組んでまいります。

■ 2022年2月期 連結・部門別業績予想の概要

連結業績予想の概要	2021年2月期 (実績)	2022年2月期 (予想)	前期比増減	
	(百万円)			%
売上高	16,765	18,500	+1,735	+10.3
営業利益	1,147	1,100	-47	-4.2
経常利益	1,344	1,130	-214	-16.0
親会社株主に帰属する当期純利益	995	790	-205	-20.7
1株当たり当期純利益(円)	59.47	47.18	-12.29	-20.7
設備投資額	637	—	—	—
減価償却費	414	—	—	—
研究開発費	526	—	—	—

部門別業績予想の概要	2021年2月期 (実績)	2022年2月期 (予想)	前期比増減	
	(百万円)			%
連結売上高	16,765	18,500	+1,735	+10.3
機械部門	11,171	13,100	+1,929	+17.3
化成品部門	5,593	5,400	-193	-3.5
セグメント利益	1,147	1,100	-47	-4.2
機械部門	1,084	—	—	—
化成品部門	546	—	—	—
全社、消去	△482	—	—	—
為替(円/USD)	105.98	105.00	—	—

ステークホルダーの皆様へ

私たちは将来を見据え、中核として守るべきは社会に必須の医薬品分野の技術・事業であり、それらを担う製薬メーカーは全世界に必要とされていると認識しております。21/2月期は、医薬品の主要市場である欧米やインドに加え、中国、東南アジア、アフリカなどの医薬品新興地域にまでアクセスできるネットワークや製品群を確保することができました。

より広範なグローバル展開のための事業基盤を確保できた現在、重要なのが経営ビジョンにある「世界中の人々の医療と健康の未来に貢献し、豊かな生活と食の安全・安心を支える技術を生み出し、育成していくことを目指す」ことだと考えています。コロナ禍にある今こそ大切なこの価値観の実現を、グループが一丸となって推進し、真のグローバル経営を目指したいと考えています。

今後とも、『ONE FREUND』の価値観のもと、次世代の成長基盤構築に取り組んでまいりますので、ステークホルダーの皆様には変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。



グローバル 5極体制 について

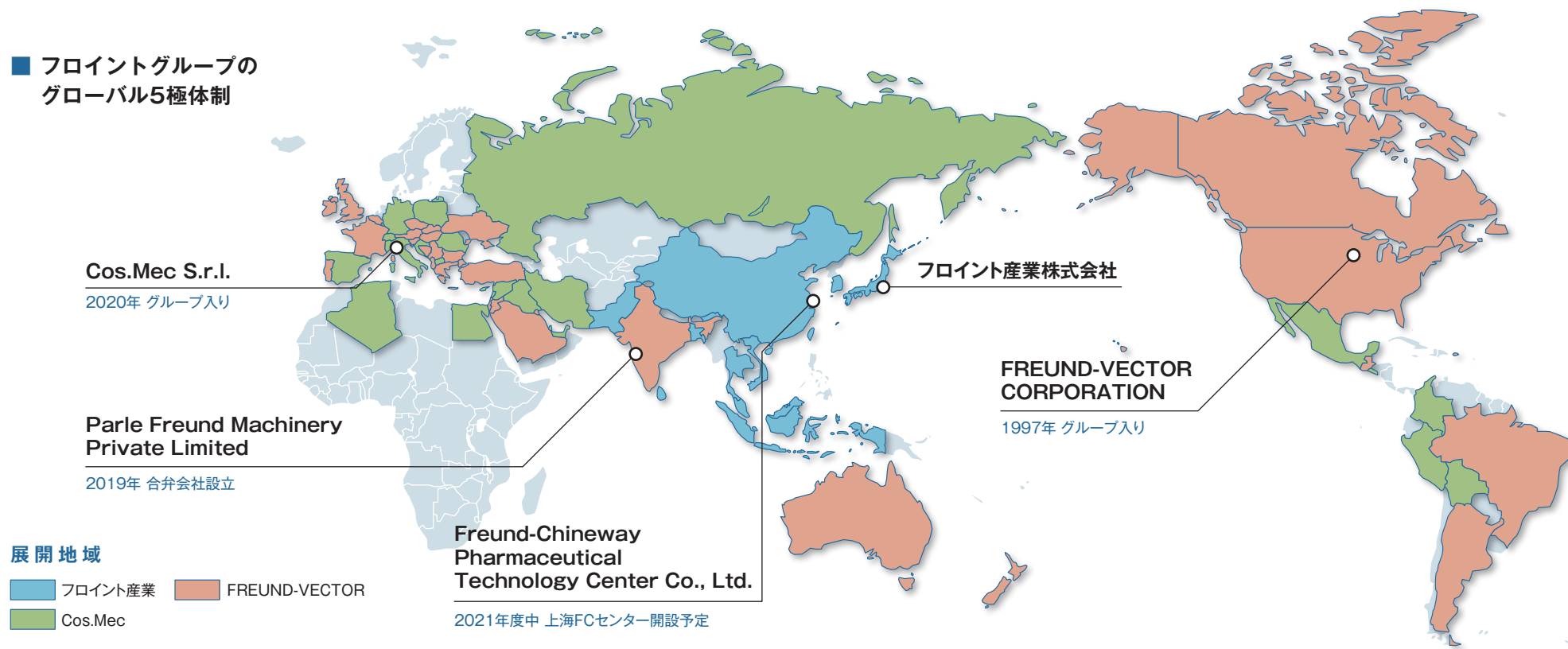
医療情報サービスグローバル大手のIQVIA Institute for Human Data Science予測(2021年5月)によると、世界の医薬品市場は2025年までに1.6兆ドルを超え、年平均成長率(5ヵ年)は3~6%と想定されています。この間の成長のけん引役は、米国と中国を中心とした医薬品新興国市場と見込まれています。

医薬品支出の市場は、医薬品先進国である米国、欧州5ヵ国(ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、スペイン)、日本が上位3傑を占めてきました。欧州5ヵ国においては、2025年に向けてドイツ、イギリス、イタリアがグローバル並みの成長率を維持する見込みです。

医薬品新興市場においては、中国が圧倒的な市場規模に成長しています。すでに日本を凌駕し、欧州5ヵ国に次いでいます。また、2025年にかけての成長率という点では、ブラジル、インド、トルコなどに大きな成長が見込まれています。

2021年5月現在、フロイントグループは、日本、米国、インド、イタリアに事業拠点を組織し、今年度内に中国を追加し5極体制となります。市場規模的に重要な医薬品先進国市場、今後大きな成長が見込まれる医薬品新興市場にアクセスできる体制になったことで、本格的なグローバル展開に向けての基礎が整備できたと考えています。

■ フロイントグループの グローバル5極体制



日本、米国、インドに加え、当社のグローバル5極体制を構成することとなった第4極目のCos.Mec、第5極目の上海FCセンターを紹介します。

グローバル第4極：イタリアCos.Mec

2020年11月にグループ入りしたCos.Mecは、1991年設立の中堅製剤機械メーカーで、機械メーカーが集積するミラノ郊外を本拠地としています。同社は、原料や中間材料を運ぶ、混合する、また最終製品である顆粒などを溜めるといった、製剤の付帯的工程を担う搬送・プロセス装置の専門メーカーとして成長してきましたが、約10年前から、当社が手掛ける造粒や乾燥といった機械装置にも参入しています。

欧州には、GlattやGEAといったグローバル大手の製剤機械メーカーが存在しますが、Cos.Mecは、中核工程間をつなぐ付帯的工程を担う製品にイタリアのデザインを乗せ、イタリア国外や欧州圏外に販売する戦略で独自の市場を開拓してきました。

2020年12月期の欧州圏外の売上高比率は61%、内訳は中南米が35%(メキシコ、コロンビアなど)、アジアが13%(バングラデシュなど)、中東6%(サウジアラビア、UAEなど)、アフリカ7%(エジプトなど)となっており、医薬品新興地域における事業展開が主流です。顧客も製薬グローバル大手に次ぐ準大手メーカー層となっています。

人口が拡大する発展途上地域においては、生活習慣病に関する潜在市場がとても大きいと考えています。これら地域がいずれ高齢化していく過程で、食生活の欧米化により引き起こされる様々な病気に対して、経口固形製剤のニーズが高まることが想定されます。そのような流れのなかで、製剤工程全体を理解し、安価なものづくりに対応できるCos.Mecがグループ入りした意義はたいへん大きいと言えます。

Cos.Mecのグループ入りにより、当社グループの展開地域、製品群が大きく広がりました。今後は、市場に適したより良い製品の提供やメンテナンスを含めたサービスの地域対応、質の高い現地エージェントの開拓の観点から、グループ事業基盤の最適化を図ってまいります。

Cos.Mecの概要

名称	Cos.Mec S.r.l.
所在地	Via Aldo Moro, 17/19, 20037, Paderno Dugnano, Milan, Italy
代表者の氏名	Angelo Lamanna
事業内容	医薬品等製造機械装置の製造、販売 搬送・プロセス装置 Material Handling System 主にコンテナ、振動ふるい、空気搬送装置、コーンミル粉砕機、コンテナ・ドラム混合器、リフター、洗浄装置など
主な医薬品製造機械装置	造粒機械装置 Granulation System 流動層造粒・乾燥装置、攪拌造粒装置
主な製薬顧客市場	イタリア、スペイン、ロシア、メキシコ、コロンビア、バングラデシュ、サウジアラビア、UAE、エジプトなど
資本金	80,000 ユーロ(9.7百万円)
設立年	1991年

Cos.Mecの最近3年間の経営成績及び財政状況 単位：千ユーロ(百万円)

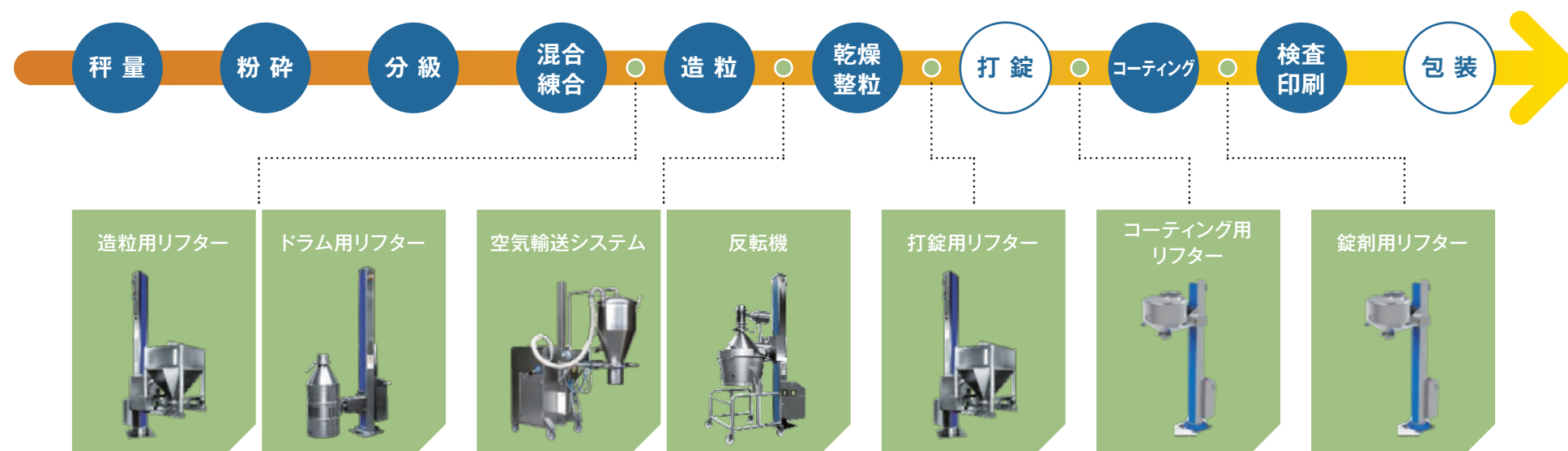
	2017年12月期	2018年12月期	2019年12月期
純資産	1,128 (138)	1,664 (203)	1,927 (236)
総資産	7,894 (966)	9,499 (1,163)	11,031 (1,350)
売上高	10,080 (1,234)	9,130 (1,118)	10,016 (1,226)
営業利益	541 (66)	641 (78)	634 (77)
経常利益	526 (64)	933 (114)	689 (84)
当期純利益	349 (42)	736 (90)	492 (60)

(注) 1 € = 122.45円(2020年11月4日現在)で換算

Cos.Mecの本社外観と本社製造工場



Cos.Mecがカバーする医薬品製造工程



● フロイント産業、FREUND-VECTOR、フロイント・ターボの製品群でカバーしている工程 ● Cos.Mecの製品群

Cos.Mec経営陣からのメッセージ



Angelo Lamanna

創業者、Managing Director

当社は、「固形製剤のグローバルパートナー」として、30年にわたりイタリア内外の製薬・化学・食品業界の顧客メーカーに対して、各国の医薬品製造のガイドラインに準拠した機械設計や工場設計のソリューションを提供してきました。当社は、顧客との緊密な協働により、粉体・顆粒の搬送・プロセス工程における包括的のみならず、カスタマイズしたソリューションを提供し、顧客の様々な生産ニーズに対応しています。

当社は、以下をミッションとしています。

- 1 イタリアでの設計、エンジニアリング (Made in Italy)
- 2 国際規制や手続きの遵守
- 3 品質、効率、安全の最優先
- 4 コストを上回る顧客価値の提供
- 5 主要市場での販売前後の効率的な現地サポート
- 6 充実した品質関係書類の提供
- 7 ハイレベルな工程自動化の実現
- 8 機械装置のシンプルな取り扱い

2020年11月5日、Cos.Mecは全持分をフロイント産業に譲渡しました。これによりCos.Mecはフロイントグループの一員として、日本、アメリカ、イタリア、インドに拠点を持つ多国籍企業の一翼を担うことになりました。現在、技術と営業の両面で、フロイントグループとしての統合的な戦略に沿って、企業価値の向上を図るべく活動を開始しています。

イタリア・ミラノ郊外の当社の本社・工場にぜひお越しください。お待ちしております。

グローバル第5極：上海FCセンター

巨大な医薬品新興市場である中国に対し、グローバル大手製剤機械メーカーが参入を図っていますが、中国は日本品質に対する信頼が高いため、当社グループの優位性を発揮できる市場と捉えています。中国製薬企業の製品開発サポートを強化し、当社の優位性を事業機会につなげるため、2021年度中に技術開発研究所である上海FCセンターを開設する計画です。

2015年に始まった中国政府による薬事制度改革のもと、GMP(医薬品の製造管理及び品質管理の基準)に基づく製造プロセスと高機能の添加剤は必須の要素となっています。この流れのなか、同センターは、中国国内において当社製の機械装置と医薬品添加剤の双方を取り扱う研究施設として、当社の機械・添加剤製品を一括テストすることで、当社製品の認知度向上につなげてまいります。

上海FCセンターの概要

会社名	Freund-Chineway Pharmaceutical Technology Center Co., Ltd. (中国名：富仁德昌为制药技术(上海)有限公司)
所在地	中華人民共和国 上海市
出資割合	チャインウェイ(Chineway)51%、当社(Freund)49%
資本金	50百万人民元
事業内容	中国の医薬メーカーに対する製剤技術サービス
研究所開設	2021年度中

上海FCセンター経営陣からのメッセージ



Sherry Fang (方昌秀)

上海FCセンター総経理、
Shanghai Chineway Pharmaceutical
Technology Co., Ltd. 董事長

上海FCセンターのための合併契約締結は嬉しい一歩です。2000年設立のShanghai Chineway Pharmaceutical Technology Co., Ltd.(以下「チャインウェイ」)は、中国における医薬品添加剤の主要販売会社の一社です。20年以上にわたる中国での医薬品事業の経験と、1,000社以上の顧客基盤を持つチャインウェイは、特に固形剤を中心とした医薬品製造装置、原薬、技術移転の分野で事業を拡大しています。チャインウェイは、中国の製薬業界の「トータルソリューションプロバイダー」を目指すビジョンのもと、中国における事業展開のための長期的なパートナーを探していました。

フロイント産業は、「ペンとインク」、「ハードウェアとソフトウェア」を統合したビジネスモデルを持ち、機械装置、添加剤、さらには製剤技術を組み合わせさせたサービスを提供しており、中国の製薬業界にトータルソリューションを提供するというチャインウェイのビジョンと完全に合致しています。

そのため、フロイント産業の添加剤の販売代理店として数年間の取引を積み重ねたうえで、事業範囲を中国の製薬顧客企業向け医薬品製造装置販売や技術移転に拡大・発展させるため、フロイント産業との合併会社、上海FCセンターを設立するに至りました。

中国は、世界第2位の医薬品市場です。高成長の市場の一方、競争の激しい市場です。上海FCセンターは、先進技術、高品質、そして顧客視点を第一に考え、中国市場での成功に向け、まい進してまいります。

10-YEAR FINANCIAL DATA

フロイントグループ 10年財務データ

フロイント産業株式会社及び連結子会社
2012年2月期から2021年2月期の各事業年度

(単位：百万円)

	2012年2月期	2013年2月期	2014年2月期	2015年2月期	2016年2月期	2017年2月期	2018年2月期	2019年2月期	2020年2月期	2021年2月期
会計年度										
売上高	15,236	16,396	17,616	17,424	19,027	21,164	19,801	18,408	16,772	16,765
売上原価	10,624	11,313	12,377	11,978	12,921	14,343	12,985	12,220	11,344	11,126
販売費及び一般管理費	3,546	3,612	3,952	4,295	4,759	4,779	4,845	4,964	4,870	4,491
営業利益	1,065	1,470	1,286	1,150	1,346	2,041	1,971	1,223	558	1,147
親会社株主に帰属する当期純利益	608	765	787	695	961	1,064	1,477	843	381	995
EBITDA ^{※1}	1,351	1,717	1,610	1,478	1,687	2,396	2,329	1,575	951	1,574
受注高	12,200	12,117	12,804	14,340	15,109	18,286	12,129	12,574	11,006	12,386
期末受注残高	6,148	5,809	5,551	6,780	7,328	8,790	5,906	5,555	4,897	6,615
資本的支出	218	222	477	545	266	564	524	627	951	637
減価償却費	264	232	303	308	321	338	344	344	386	414
研究開発費	390	435	464	592	687	640	862	832	725	526
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,219	740	1,227	822	290	3,605	594	435	△ 27	2,280
投資活動によるキャッシュ・フロー	△154	△332	△423	△240	△432	△351	△ 493	△ 566	△ 852	△ 1,726
財務活動によるキャッシュ・フロー	△134	△164	△226	△284	△331	△277	△ 499	△ 921	△ 325	△ 371
会計年度末										
総資産	14,342	14,971	15,550	17,277	17,206	19,101	19,125	17,465	18,505	20,499
純資産	8,489	9,315	10,392	11,180	11,529	12,185	13,242	13,250	13,243	13,884
(うち自己資本)	8,356	9,197	10,239	10,987	11,529	12,185	13,242	13,250	13,243	13,884
1株当たり情報^{※2}										
当期純利益 (EPS、円)	35.30	44.38	45.69	40.36	55.74	61.72	85.69	50.15	22.79	59.47
純資産 (BPS、円)	484.56	533.37	593.76	637.19	668.57	706.62	767.91	791.34	790.94	829.21
配当金 ^{※3} (DPS、円)	7.50	10.00	12.50	15.00	25.00	20.00	20.00	20.00	20.00	20.00
主な指標										
営業利益率 (%)	7.0	9.0	7.3	6.6	7.1	9.6	10.0	6.6	3.3	6.8
総資産利益率 (ROA、%)	4.2	5.1	5.1	4.0	5.6	5.6	7.7	4.8	2.1	4.9
自己資本利益率 (ROE、%)	7.5	8.7	8.1	6.6	8.5	9.0	11.6	6.4	2.9	7.3
配当性向 (%)	21.2	22.5	27.4	37.2	22.4	32.4	23.3	39.9	87.8	33.6
自己資本比率 (%)	58.3	61.4	65.8	63.6	67.0	63.8	69.2	75.9	71.6	67.7

※1 EBITDA=営業利益+受取技術料+支払利息+減価償却費

※2 当社は、2016年3月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行いました。2012年2月期の期初に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり情報」を算定しております。

※3 記念配当2.50円(2015年2月期)、5.00円(2017年2月期)含む。

当社は、リスク分散経営を通じ、市場変動に左右されない安定した収益構造を構築し、持続的成長を可能にする事業ポートフォリオの構築のための財務戦略を重視しております。2021年2月期(以下「21/2月期」)は、コロナ禍によりマクロ経済が大きく影響を受けましたが、第8次中期経営計画(以下「当中計」)の初年度として、想定していた業績をほぼ達成できたと評価しております。製薬業界を主要顧客として、日本を中心に長年にわたり構築してきた顧客基盤やブランドバリューに支えられた決算となりました。

グループ会社別経営成績の概要

フロイント産業 日本 医薬品分野・非医薬品分野

機械部門において、当中計の経営目標の一つ「完全顧客視点」に立った製品・サービスの訴求が強化され、日本の事業が売上高・利益ともに大きく貢献いたしました。さらに、中国においても、販売代理店2社の貢献があり、売上が大きく伸びました。

化成品部門では、医薬品添加剤事業において、日本の製薬メーカーに海外生産移転が発生し、特に中国と欧州向けに輸出が拡大いたしました。一部製薬メーカーによる生産調整の影響を受けた結果、減収減益となりました。

フロイント・ターボ 日本 非医薬品分野

主に上半期に化学・産業機器メーカーの需要減退の影響を受け、減収減益となりましたが、戦略製品である高速混合造粒機「BALANCE GRAN」のブランド認知が進んだことから、製品ラインナップが充実してきています。2022年2月期は、この強みを拡販につなげる取り組みを進めております。

FREUND-VECTOR 米国 医薬品分野

コロナ禍の影響を大きく受け、減収となりました。ドル高の影響を受け、ドルベースで競争力が低下し、過去数年活況を呈していたブラジルと中南米の需要が大きく減少いたしました。利益面では、経費削減を図ったことに加え、米国政府によるコロナ対策補助金があったため、増益となりました。

Cos.Mec イタリア 医薬品分野

2020年11月にグループ入りしました。21/2月期は第4四半期だけの業績貢献となりますが、好調な業績でした。

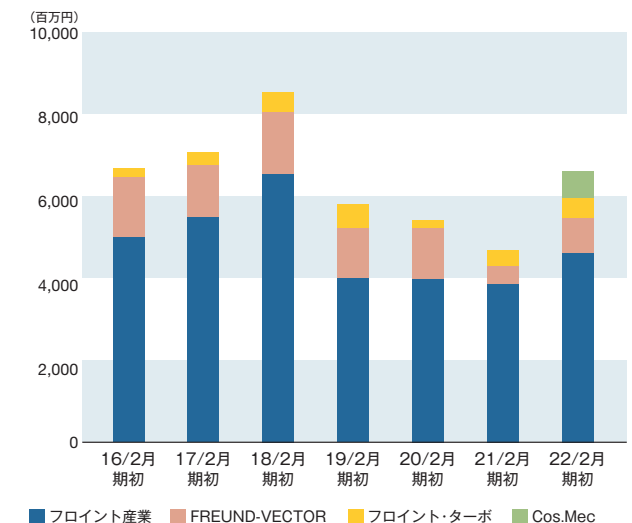
今後重視する経営指標について

今後重視すべき経営指標は、グループ各社の売上高、営業利益、そして期初の受注残高だと考えております。複数の事業を抱えるフロイント産業単体については、機械部門、化成品部門(医薬品添加剤・食品品質保持剤)の売上高と売上総利益が重要な指標となります。

また、期初の受注残高と上半期の受注活動が通期業績の重要な基礎となるため、下半期に偏りがちな業績の平準化につなげ、より安定した業績を目指したいと考えております。

さらに、開発が売上高の源泉であるとの考えに基づき、上市3年以内の新製品比率を重視したいと考えております。そのために、各部門における新製品開発において、ステージ管理を強化しております。

グループ各社の期初受注残高の推移



名誉会長・役員

名誉会長・取締役



社外取締役
中竹 竜二

常務取締役
若井 正雄

名誉会長
伏島 靖豊

代表取締役社長
伏島 巖

取締役
本田 稔昭

社外取締役
田中 尚

監査役



社外監査役
泉本 小夜子

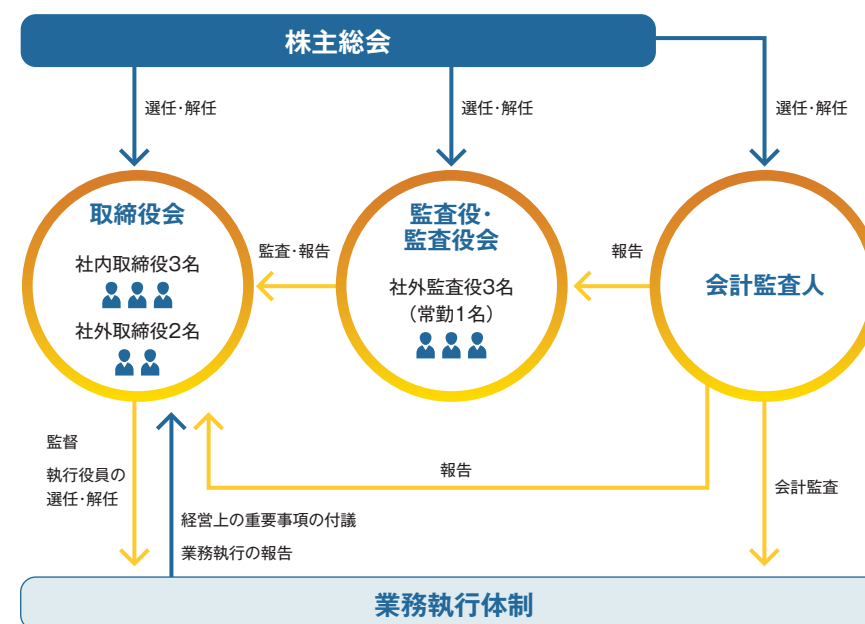
常勤監査役
平野 栄

社外監査役
濱田 和成

持続的成長を支える コーポレート・ガバナンス体制

当社グループでは、『創造力で未来を拓く。』という企業理念のもと、2021年2月期(以下「21/2月期」)を初年度とする第8次中期経営計画が始動しました。その遂行にあたり、公正で適正な競争のもとユーザーの皆様へ最高の製品を提供し、適正な利益を得るといった経済的責任を果たしてまいります。また、広く社会の一員としての責務を果たし、貢献する企業グループであることを念頭に事業を展開します。

■ コーポレート・ガバナンス体制 (2021年5月末日現在)



社外取締役及び社外監査役の 選任理由及び2021年2月期における主な活動状況

中竹 竜二 社外取締役

再任

経営全般に優れた見識を兼ね備えており、経営監督能力を十分に発揮できると判断したことから選任いたしました。

2021年2月期開催の取締役会11回のうち
11回に出席しています。

田中 尚 社外取締役

新任

経営者としての豊富な経験と幅広い見識を兼ね備えており、経営監督及びコーポレート・ガバナンス強化に寄与できると判断したことから選任いたしました。

平野 栄 常勤監査役

現任

財務及び会計に関する知見及び経営全般に優れた見識を兼ね備えており、経営監督能力を十分に発揮できると判断し選任いたしました。

2021年2月期開催の取締役会11回のうち11回、
監査役会12回のうち12回に出席しています。

泉本 小夜子 社外監査役

再任

長年にわたる公認会計士の経験と、財務及び会計に関する豊富な見識を活かし、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し選任いたしました。

2021年2月期開催の取締役会11回のうち11回、
監査役会12回のうち12回に出席しています。

濱田 和成 社外監査役

新任

弁護士としての専門的な知識・経験を有し、法律専門家として客観的な立場から、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断し選任いたしました。

常勤監査役メッセージ



常勤監査役

平野 栄

2021年2月期の振り返り

21/2月期は、海外事業の強化やBPI(業務プロセスの革新)の推進、人事制度の抜本的な見直しなどが始まり、第8次中期経営計画の経営目標に沿った第一歩を着実に踏み出しました。

一方で、新型コロナウイルス感染対策の一年でもありました。在宅勤務が本格的に導入され、社内外でWeb会議が当たり前になりました。監査役としても、対面の関係を大事にしながらも、電子情報やリモートでのコミュニケーションを活用した監査活動の重要性を再認識いたしました。

フロントグループの今後の展望

事業同様に、監査活動もしっかりとグローバル化に対応していく必要があります。監査役会は、4名から3名の新体制となりましたが、引き続き常勤監査役を含め全員が社外独立役員であり、独立性の高い監査体制です。また、新任の濱田監査役はこれまで不在であった法律の専門家であり、特に日系企業の海外活動にも詳しく、グローバル展開を進める当社にとって最適の人材です。重任である泉本監査役は会計士として、国際会計面の知見や社外役員としての豊富な経験を存分に発揮されています。常勤監査役の私も、財務経験のほか、海外での事業活動の経験をしっかりと活かしてまいります。

グローバル化のためにも、内部監査室、海外ネットワークを含めた監査法人との三様監査の連携を深めていくことが求められています。監査の面からそれぞれの専門性を活かしつつ、グローバルな事業活動の健全な発展に資するよう努めていく所存です。

新任役員 メッセージ

2021年5月28日付で、取締役・監査役体制を一新いたしました。新体制のもと、ガバナンス強化やリーダー人材の育成、グローバルな事業基盤の強化などを図ってまいります。ここに、社内取締役として経営企画を担い、常務取締役に昇任した若井正雄、新任社内取締役としてユーザー視点の事業推進を担う本田稔昭及び、新任社外取締役として永年製薬業界に従事し、グローバル経営にも精通した田中尚氏、新任社外監査役としてグローバルな法務経験がある弁護士の濱田和成氏をご紹介します。

社内取締役



常務取締役

若井 正雄

21/2月期は、いろいろな意味で当社グループの新しいスタートの年でした。第一に第8次中期経営計画の初年度として、3年間の新しい7つの経営目標を掲げました。第二にフロイント産業を7本部制とし、各本部の長を執行役員に任命しました。執行役員8名に社長の伏島と子会社社長2名を加えた11名で新しい経営会議を組織し、グループ全体の課題対応と情報の共有を図りました。

21/2月期業績は、コロナ禍の影響を一部受けましたが、各本部・子会社の不断の努力により、売上高こそ計画に若干届きませんでしたが、営業利益以下の利益項目は大幅に計画を達成することができました。

2022年2月期は、引き続き第8次中期経営計画の7つの経営目標に取り組んでいきます。業績予想の連結売上高185億円、営業利益11億円を目指し、成長戦略を一段と加速してまいります。特に日本では製薬会社の生産プロセス効率の向上・高度化サポートに、海外では買収したイタリアのCos.Mecとのシナジー追求と今年度内に開設の技術開発研究所「上海FCセンター」の活用注力してまいります。また、化成品の生産体制の強化とコンピューターシステムの高度化を行います。

ステークホルダーの皆様のみならず、ご支援をよろしくお願いいたします。



取締役

本田 稔昭

私は、当社新卒入社以来、営業畑を歩んでまいりました。現在は、技術、機械営業、添加剤営業、海外営業が一体となったカスタマー事業本部を率いております。私が事業の現場に求めているのは、『創造力で未来を拓く。』という当社の企業理念のもと、お客様の先のお客様、すなわち社会を見据えた市場に対して、いかに価値を創造するかということです。

また、社員一人ひとりと私たちが働く意義を一緒に考え、事業現場の意識を高め、経営ビジョンに沿った事業、社会に貢献できる事業を育てていきたいと考えています。そのような意識を会社として高めていくことに貢献してまいります。

新任取締役として、私は唯一、プロパーとして社内取締役に選任いただきました。私の強みは、お客様、そして事業現場を理解していることだと思います。今はどちらかというと、近未来的視点が強いかもしれませんが、取締役として、10年後、20年後といった中長期的視点とのバランスを意識しつつ、事業領域の拡大などにもチャレンジしたいと考えています。

プロパーであることの強みを活かし、事業の現場と一体となり、持続的・安定的な事業成長を実現できるように尽力してまいります。

社外取締役



社外取締役(独立)

田中 尚

長年、国内大手製薬会社の研究所で製剤研究、米国駐在、臨床研究を統括してまいりました。また、現職では中国事業の立ち上げなども行いました。中国の医薬品業界は、従来漢方薬が主流で、独自の新薬がなく、まだ先進国の医薬品を模倣する段階と言えます。後発品の普及もこれからです。一方で、中国が短期間で追いつてくることを視野に入れておかねばなりません。当社は今後本格的に中国に進出しますが、そういった想定に関する議論も進めたいと考えています。

当社は、グループ価値観『ONE FREUND』のもと、「Number ONE」「Only ONE」「Be ONE」という3つの軸を具体的に定義していますが、これは素晴らしいことだと思います。これらを事業に具体的に落とし込むには、グローバルに多様な人材の育成が必要になります。

医薬品メーカーにいた頃、私は外資系出身の上司のもとで、欧米での医薬品承認申請の海外当局とのやり取りなど、グローバルな仕事の仕方を勉強させていただいた経験があります。また、研究所では、人事権を持たせていただき、人の育成に注力いたしました。そういったグローバルな事業推進、そして人材育成の経験を活かして、次世代の成長基盤構築に貢献したいと考えています。

現在は第8次中期経営計画の実行が最優先ですが、その先にある100年企業を目指すために必要な助言をしていきたいですし、社外の観点から発言すべきことをしっかり発言することで、社外取締役の責任を果たしたいと考えています。

社外監査役



社外監査役(独立)

濱田 和成

弁護士として、国内外の事案に関する様々な助言をしてまいりましたが、JALとJASの統合時期にJALに出向する機会がありました。企業の内部から、法律家の視点で経営判断の現場を体験できたことはとても貴重でした。

当社は監査役会設置会社ですので、監査役は経営に関わることはありませんが、経営の責任を持つ取締役と緊張関係を持ちながら、協力して会社を望ましい姿に方向づけていく役割があります。弁護士の視点で、他社を見てきた経験・知見を活かし、疑問に思うことや気づきについて、積極的に発言したいと考えています。

監査等委員会に移行する会社も増えてきましたが、仕組みだけでガバナンスが効くとは言い切れません。大切なのは、取締役と監査役の関係で、そのバランスであり調和だと考えます。コーポレート・ガバナンスの視点からも、監査役会での議論を重ね、会計監査人、内部監査室との連携をとりながら、三様監査の実効性を高めたいと思います。

社外監査役として事業会社に参加するのは今回が初めてですので、身の引き締まる思いです。当社グループは、医薬品や食品など、世の中の人々に不可欠な市場を支えています。今後、グローバルに果たせる役割が一層拡がると感じています。

その実現に向けて、社員の皆さんがより働きやすい職場・会社になり、その結果として企業価値を向上させることで、ステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう尽力してまいります。

リスクマネジメントについて

事業等のリスク

当社グループの事業は、下記に記載する様々なリスクに晒されており、リスクの顕在化により予期せぬ業績の変動を被る可能性があります。これらのリスク発生の可能性を認識したうえで、可能なかぎり発生の防止に努め、また、発生した場合は迅速・的確に対処する方針です。ただし、全てのリスクを網羅している訳ではありません。なお、本項に含まれる将来に関する事項は、2021年2月末時点において判断したものです。

各リスク項目の詳細につきましては、以下の当社Webサイトをご参照ください。

<https://www.freund.co.jp/ir/policy/risk.html>

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1 業界動向に関わるリスク | 9 人材の確保に関わるリスク |
| 2 価格競争に関わるリスク | 10 為替変動に関わるリスク |
| 3 顧客企業の信用に関わるリスク | 11 自然災害等に関わるリスク |
| 4 業務提携先との関係等に関わるリスク | 12 固定資産の減損リスク |
| 5 戦略的パートナーとの提携関係に関わるリスク | 13 海外における事業活動に潜在するリスク |
| 6 知的財産権に関わるリスク | 14 情報漏洩によるリスク |
| 7 製造物責任に関わるリスク | 15 新型コロナウイルス感染症に関わるリスク |
| 8 公的規制等に関わるリスク | |

今後注視すべきリスク

事業の運営上、21/2月期は、新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延によるリスクが顕在化いたしました。このほか、今後注視すべきリスクとして、以下を認識しております。

業界動向に関するリスク

日本では薬価引下げが今後も継続することが予想され、製薬業界再編の可能性も考えられます。2020年11月のイタリアCos.MecのM&A、2021年度中の上海FCセンターの開設にあるとおり、当社グループは海外市場でのプレゼンスを高め、医薬品分野のグローバル展開を加速するとともに非医薬分野である食品、電池、ケミカル業界などに関連する機械事業、化成品事業を推進し、展開地域、事業領域の拡充を図っております。

海外における事業活動に潜在するリスク

世界各国の財政・医療政策動向が製薬会社の経営に影響を与えます。米国をはじめ先進国の製薬会社は、製造をコストの安い新興国に移転するなどのコスト低減策を講じています。事業拡大に関する当社グループの重点国・地域は、人口・所得の伸びが見込まれるインド、中国、東南アジアなどであり、これら国・地域で事業展開することに関するリスク管理が求められます。このため、国別・地域別の情勢把握や戦略の立案、個々の取引のモニタリングなどを強化しております。

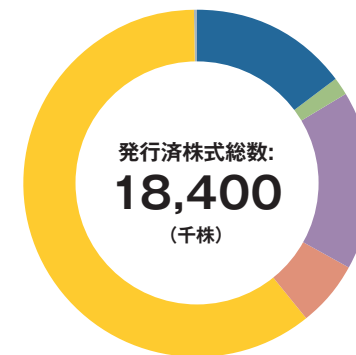
商号	フロイント産業株式会社
設立	1964年4月22日
資本金	10億3,560万円
連結従業員数	484名
本社所在地	〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-25-13 フロイントビル
ホームページ	https://www.freund.co.jp
上場証券取引所	東京証券取引所 JASDAQスタンダード(証券コード 6312)
事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	毎年5月開催
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
発行済株式総数	18,400,000株
株主総数	15,713名

大株主の状況 (上位10名)

	持株数 (千株)	持株比率 (%)
(株)伏島揺光社	1,648	9.84
伏島靖豊	1,256	7.50
(株)三菱UFJ銀行	836	4.99
(株)三井住友銀行	744	4.44
(株)大川原製作所	673	4.02
PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	503	3.00
フロイント従業員持株会	401	2.39
(株)静岡銀行	368	2.19
明治安田生命保険相互会社	360	2.14
QUINTET PRIVATE BANK (EUROPE) S.A. 107704	321	1.92

自己株式1,655千株(9.00%)を保有しております。
持株比率は自己株式1,655千株を控除して計算しております。

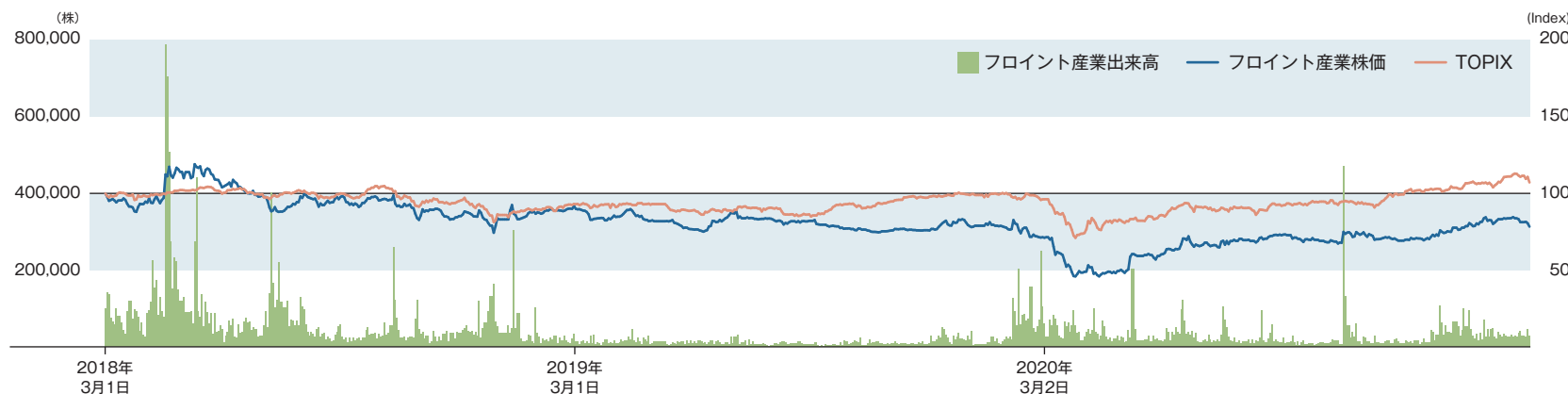
所有者別株式分布状況



	持株数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割合 (%)
■ 金融機関	2,716	14.76
■ 金融商品取引業者	304	1.65
■ その他法人	3,063	16.65
■ 外国法人等	1,145	6.22
■ 個人・その他	11,160	60.65
■ 政府・地方公共団体	12	0.07

(注)自己株式は「個人・その他」に含めて記載しております。

株価・出来高・TOPIXの推移



(注)本チャートは、分割前の株価及び出来高を遡及修正した、調整後株価・出来高にて作成しています。フロイント産業とTOPIXの値は、2018年3月1日の終値データを100としています。

フロイント産業株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-25-13 フロイントビル

このフロイントレポートに関するお問い合わせは右記までお願いいたします。

経営企画本部 経営企画部

Tel: 03-6890-0767 E-mail: ir@freund.co.jp
Fax: 03-6890-0870 URL: <https://www.freund.co.jp>

